

第3回富良野市農政審議会 会議録

日 時：平成30年12月20日（木）15:00～17:20

場 所：富良野市役所3階 第3会議室

出席委員：佐々木雅志委員 藤野啓一郎委員 亀渕貴史委員

岡田憲雄委員 池田勝委員 杉村鉄也委員

佐藤仁寿委員 猫塚雅彦委員 東山寛委員

※9名参加

事務局：後藤経済部長 上田農林課長 西出主幹

高見畜産係長 石出農業振興係長

農業振興係・志賀

1. 開 会（司会：後藤経済部長）

●後藤経済部長

ただいまより第3回富良野市農政審議会を開催いたします。本日は年末の大変お忙しいところ、お集まりいただき誠にありがとうございます。

それでは、本日の出欠状況を申し上げます。委員13名中、9名の出席、富良野市農業及び農村基本条例第18条2項にある委員の過半数による開会の条件を満たしていることをご報告申し上げます。なお、本日小師委員長が欠席でございますので、開会にあたっての挨拶を佐々木副委員長にお願いしたいと思います。

2. 委員長挨拶

●佐々木副委員長

みなさんこんにちは。小師委員長がインフルエンザにかかりまして、出席できないことから、私が代わって進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

さて、審議会も第3回目となりますが、年末の大変お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年を振り返りますと3月に大雨が降り、6月に低温と日照不足、さらに7月の長雨と、それから追い打ちをかけるように高温・干ばつと、非常に作物にストレスのかかる状況でありました。露地野菜は生産量が多少落ち込んでいると聞いておりますし、その中でも平年並みに収量があったという方もいるというお話も聞いております。園芸作物については、平年並みにとれたという事で、全体的には多少落ち込むものと考えております。そういった意味で来年度に向けて強い気持ちを持つことが必要なのかなと思います。本日は3回目の審議会ということで、計画の策定に向けて、皆さんに忌憚のないご意見を頂きたいと思います。簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いします。

●後藤経済部長

ありがとうございました。このあとの進行につきましては、富良野市農業及び農村基本

条例第 17 条にあるように、委員長に事故がある時は副委員長が務めることとなっておりますので、佐々木副委員長にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 審議

●佐々木副委員長

それでは早速審議に入らせて頂きます。審議の（1）新たな「富良野市農業及び農村基本計画」における取組内容（案）について事務局より説明をお願いします。

●事務局

まず説明に入る前に、11月22日に視察を行っておりまして、参加された委員の方々から所感をいただいている方もおりますので、そちらを共有させて頂きたいと思っております。

<以下、資料「視察内容まとめ」について説明>

この視察内容とこれまで皆さんに審議いただいた内容、それから市内の各関係団体との意見交換の内容を踏まえまして、事務局としてまとめたものが資料1の新たな「富良野市農業及び農村基本計画」における取組内容（案）となっております。

<以下、資料1 新たな「富良野市農業及び農村基本計画」における取組内容（案）1節について説明>

●佐々木副委員長

資料が膨大でありますので、一旦休憩をはさみたいと思っております。

※5分間の休憩

※13ページの現状と課題の文章に東山対策を挿入

●佐々木副委員長

それでは、再開したいと思います。1節について一通り説明をしましたので、この部分について意見をお伺いしたいと思います。

●猫塚委員

視察に行かせていただいて感じたのは、常に働く場を作らなければならないということ。雇用のために新規で作物を導入している状況にありました。今後そういったことも踏まえて、雇用にあわせた構造というのを考えていく必要があると感じました。今回視察したところのように協議会が雇用の受け皿となっていくのか、加工だとか観光だとかで雇用を確保していくのか、そういったものを計画の中に入らしていきと良いのかなと思っております。例えば、協議会の中で、雇用の無い時期に作物をつくって雇用を生み出すだとか、地域全体でそういった構造をつくって、農業分野で雇用を囲いこめないか考えていく必要があるのかなと思っております。

●佐々木副委員長

協議会の中で分担して、雇用を継続させることができないかということだと思いますが、以前審議会でも周辺農家と協力して働き手を確保するというお話があったかと思っております。亀淵委員どうですか。

●亀淵委員

今回視察させていただき、確かに加工事業など素晴らしい取り組みですが、リスクを考えると自分のところではできないなと感じました。個人では限界あるので、地域全体で人を回せるような受け皿となる組織が必要なのかなと思います。

●佐々木副委員長

農家では直接雇用もありますが、長く雇用するためには仕事をつくるなど苦勞している部分があります。先日農業委員で四国のにしゅうわ農協を視察してきました。岡田委員も行かれています、いかがだったでしょうか。

●岡田委員

繁忙期の違う産地間での連携は良いと思いました。また、視野を広げて地元の企業等、他産業との連携を模索することも必要ではないかと思います。

●事務局

＜ふらの農協・西宇和農協・沖縄県農協の産地間リレーの取組を紹介＞

- ・農業アルバイトを互いに融通し合う「(仮)農業労働力確保産地間連携協議会」設立を決定
- ・富良野ミニトマト・スイカ等4～10月、西宇和ミカン11～12月、沖縄サトウキビ12～3月と農業アルバイトが産地間をリレーする
- ・複数の農協を渡り歩くと交通費に加え、5千円程度の紹介料を関係農協が負担し合う
- ・共同で求人サイトを設けたり、農業フェアの合同開催などを検討
- ・安定的な人材確保とともに、募集や採用の業務の効率化、経費削減なども期待

●佐々木副委員長

全国ネットワークの取組ですが、地域としても労働力を分配するような仕組みが必要なのではないかなと思います。

●藤野委員

雇用に関して、法人の雇用対策と個人農家の雇用対策と大きくギャップがあると思います。ある法人では、来年外国人技能実習生を10人に増やすというお話もありますが、非常に雇用環境について厳しい監査があると聞いています。法人は囲い込むために、住まいだとかしっかりとした雇用環境を整備しています。そして外国人でも日本人でも故郷に帰った時に「良かったよ」とSNSで発信するような状況になっています。

今回の計画では、個人農家向けの対策という印象があります。ただ忙しいだけでは人はこない。働き手になってもらうには何をしなければならないか。例えば、コンサルタントのような労務管理や省力化に対する専門知識を持っている方の知識を、営農に反映する仕組みが必要だと思います。

●佐々木副委員長

確かに個人農家と法人では、受入の環境に差があると思います。国でも働き方改革ということを言っており、外国人の受入に関して改革を進めています。今後そういった専門

家の意見を取り入れていかないと、ますます厳しい状況が続くのではないかなと思います。

●事務局

5ページの労働力支援対策の部分ですが、大きな対策の柱として、これまでやってきた一括で働き手を集めて供給するシステムの中で議論する場が必要であるということと、仲介する組織が必要であると記載しておりますが、藤野委員がおっしゃった部分については、5ページの「国の働き方改革の浸透を図るとともに、多様な人材が働きやすい雇用環境づくりを促進します」という形で記載しております。いかがでしょうか。

●藤野委員

市役所がやるのか農協がやるのかわかりませんが、そういった受け皿ができたなら、富良野農業の魅力を発信できるのではないかな。また農家個々に応じた対策を助言できるのではないかな。さらに余力があれば、観光客が来たら、富良野農業を教えてあげるだとか、柔軟な対応ができるようにしてもよいと思います。

それから、6ページの女性参画の促進という部分で、家族経営協定は必要ですが、女性の農業士・指導農業士を促進するような文言を入れてほしいです。女性農業士の北海道のネットワークはすごい。いろいろな情報が集まってきて有益です。

●佐々木副委員長

農業現場の苦労を一番知っているのは奥さん。女性がそういった農業士の中に入っていくことは、男性とは違った視点で前向きな意見も出て良いと思います。

●事務局

6ページの女性参画の促進という部分に「指導者への女性登用と促進します」という形で記載しております。

※7ページの主要作物の作付面積を修正

2015年 畑作計 3,593.3 ⇒ 2,925.8

●佐藤委員

商工・サービス分野も連携して何かできないでしょうか。私は商工分野の審議会の委員もやっておりまして、中でも介護関係とホテル関係が人手不足の問題が深刻です。今後もホテルが7、8件ほど建設される計画がありまして、ベッドメイキングの人手が足りない。市内でベッドメイキングの人材を取り合って賃金が上昇している状況があります。ホテル側も市外から人材を連れてくるというお話もありますが、農作業ヘルパーがそちらに流れるとかそういった状況も危惧されます。例えば農作業ヘルパーは冬の仕事としてベッドメイキングをするという方法もあるかと思います。賃上げ競争の部分もありますので、農業だけでなく商工業者を入れて地域一体となって話し合っていくことが必要ではないかと思えます。

●事務局

忙しい時期が同じ産業とは、連携が難しいと感じています。先ほど亀淵委員がおっしゃったように、夏場の繁忙期でも雇用労働力を十分に活かしきれていない部分もあるので、

その中で融通し合うということに挑戦しても良いかなと考えております。

●東山委員

条例を作ったときには、これまで働き手不足が深刻になると想定していなかったと思います。現在の条例にはめ込むのは違和感がある。人手不足は北海道農協大会でも重点課題として挙げられていました。今後、条例の文言を改正する機会がありましたら、項目を別に立てたら良いかと思います。今後もこの問題については課題になってくると思いますので。

冬場の仕事の問題ですが、法人は通年雇用しなければならないのでいろいろとやっていますが、個人だと限界があると思います。その辺のビジョンをどう考えているか記載した方が良いのではないかと思います。一つは産地間リレーですよね。それから後志のように冬場のリゾートとの連携も良いと思います。コンシェルジュに行くと外国人がたくさんいますから、そういった層を取り込むとか。外国人技能実習生で言えば、農協方式という小清水の取り組みがあります。賃金で競争すると他産業には絶対に勝てないので、農業の良さを発信していくことが重要だと思います。農業の良さをどうやってアピールするかという、説明会や体験会を実施することが必要だと思います。

●亀渕委員

個人で働き手を抱えるのはなかなか厳しい部分があると思います。2, 3件で回すとか、作柄が違う農家と連携することで雇用期間を延ばすことができるのではないのでしょうか。自分個人としては、月契約で最低保証をしてあげることも考えております。

●事務局

参考になるか分かりませんが、担い手センターでは、研修生が研修先を決める際に、指導農家5軒を回ってその中で一番相性の良い農家を見つけるということをしています。指導農家それぞれ仕事の状況も違うので、5人でLINE（携帯アプリ）グループをつくって、その中で回る順番を決めてやっています。そういったSNSを活用した仕組みも面白いかもしれません。

●亀渕委員

そうですね。LINEグループに「今日うちで仕事あるので来ませんか」と投稿するのも単純な仕組みで良いですね。

●佐々木副委員長

スマートフォンを活用すれば、簡単に情報が手に入れられる時代になっていますので、そういった技術を活用していくことも必要だと思います。

さて、杉村委員は家族経営とのことですが、周辺地域の雇用の事例などあれば教えて頂けますか。

●杉村委員

周りはメロンやネギ作が多いので雇用のある地域です。これまで色々と話を聞いてきた中で、やはり同じところで働きたいというのが働き手の心情ではないのでしょうか。亀渕さ

んのところで働いている人は、亀渕さんのところで働きたいと思っています。どこでも良いから働きたいという人たちではないように思います。ちょっとした貸し借りはできると思いますが、回すのは難しいと思います。

●池田委員

なぜ人手不足で苦勞するのかなと思うのですが、手のかかる高収益作物を取り入れるから労働力が必要になると思います。手のかからない高収益作物が出てくれば良いのですがそうはいかない。周りに外国人技能実習生を雇用している農家もありますが、冬の雇用にすごく努力されています。ただ今後、制度が改正されてどうなっていくのか気になる部分です。

●佐々木副委員長

今回、外国人材も含めた中で、一括して供給するシステムや仲介する組織が必要ということで対策に盛り込んでおりますが、本日の意見を踏まえまして計画を煮詰めていきたいと思っています。

それでは次に2節の農村の維持及び振興に関する施策、3節の農畜産物の安全及び安心を確保するための施策について事務局より説明をお願いいたします。

●事務局

<以下、資料1 新たな「富良野市農業及び農村基本計画」における取組内容（案）2、3節について説明>

●佐々木副委員長

集落機能の活性化という部分で、大学との連携による調査研究と記載しておりますが何か東山委員から補足等ありますでしょうか。

●東山委員

地域自力で作られているということで非常に敬服しております。他の地域でもご用命があればご協力は惜しみませんし、学生の受入もしていただいておりますので、今後も続けていきたいと考えております。

●藤野委員

都市農村交流という部分を掲げていますが、観光の情報発信拠点としてコンシェルジュができましたが、そういったところとの連携した取り組みは何か考えていますでしょうか。

●事務局

修学旅行生の受け入れとメイドインフラノ事業について連携して進めております。農泊については情報収集しているところです。コンシェルジュを活用した取り組みについては、現在のところありません。

●藤野委員

富良野の情報発信拠点に位置付けられていますので、活用できれば良いと思います。

●佐々木副委員長

それでは次に3節について、ご意見等ありませんか。また全体を通して何かありませんか。

●東山委員

一つリクエストなのですが、今、田園回帰の時代と言われております。移住定住は中々難しい部分もあると思います。富良野もお試し暮らし住宅を止めたと聞きました。そんな中ですが、富良野の農村部への移住定住の実績が分かれば入れておいてほしいです。移住というのは、全国的にデータがあまりないので興味深いし、いろいろな面でおさえておくことが必要だと思います。地域おこし協力隊も移住者に入ります。全国的には移住定住のターゲットは3つあって、20代の若者、30代の子育て世代のUターン・Iターン、60代の退職世代。移住定住の動向データは農村振興では重要なファクターとなるので分かるのであればお願いしたいです。

●事務局

現状として移住定住の数字はおさえておりません。転入転出の数字は分かりますが、転勤のある方も含めた数字になります。地域にこういう人がいるということは分かるのですが。

●佐々木副委員長

他になければ、これで審議を終了したいと思いますが、委員の皆さんからいただいた意見を踏まえた中で次回提案したいと思います。それでは次第に戻りまして、事務局よりスケジュールについて説明をお願いします。

●事務局

次回4回目の審議会ですが、1月30～2月1日で開催したいと考えております。次回は、それぞれの対策について誰がやるのかも付け加えまして、最終版に近い形で提案したいと思っておりますので、出来るだけ多くの方が参加できる日程で調整したいと思っております。

審議後ですが、内容が問題なければ、審議会の結果として2月上旬に市長へ答申します。その後、パブリックコメントを1カ月間行いまして策定という流れになります。内容の修正が必要となりましたら、2月10日頃にもう一度審議会を行うような形で考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

●佐々木副委員長

スケジュールを含めまして全体を通して何かありますでしょうか。なければこれで第3回審議회를終了いたします。

本日審議された内容を踏まえまして提案させていただきますので、次回もまたご審議のほどよろしくお願ひいたします。

●後藤経済部長

ありがとうございました。

長時間にわたり審議いただきありがとうございました。それでは、最後に事務局からお知らせがありますのでご説明いたします。

●事務局

セミナーのご案内です。「外国人技能実習生の正しい受入方と受入の実態」と題しまして、1月23日に富良野市保健センターで行います。審議いただいた内容ともつながる内容ですので、ぜひご都合つく方は参加をお願いいたします。

●後藤経済部長

本日は大変ありがとうございました。